

## 式辞

長い間つぼみを膨らませて、校庭や御射山公園の桜が、開花を今か今かと待ちわびています。新しくすべての命が輝くこの春のよき日に、新たなステージへ巣立つ時を迎えた百三名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの卒業をお祝いするため、ご来賓の七学区自治連合会の会長様、PTA会長様をはじめ、たくさんの保護者の方々がご出席くださいました。皆様方のご理解とご協力のもと、この人生の節目となる大切な式を行えます事に、安堵の気持ちと感謝の気持ちでいっぱいです。心より厚くお礼申し上げます。

先ほど、卒業生代表の三名の手に、心を込めて卒業証書をお渡ししました。皆さん一人一人が自分で作った手書き和紙の卒業証書。これは、ここ高倉小学校で学んだ証しとなるものです。担任の先生方から名前を呼ばれて返事をする皆さんの顔を一人一人見ながら、これまで六年間のいろいろなことが思い出されました。

皆さんが低学年の頃を思い返してみますと、二年生の時には、「お米フェスティバル」で、工夫して一年生を楽しませていたことや、十月にアメリカのボストン市から訪問団が来られた時には、皆さんが学校を代表してお迎えをしてくれたことが思い出されます。手作りのプレゼントを渡したり、お抹茶を運んだりしてくれて、とても可愛らしい皆さんの姿に、ボストン市の皆さんが大変喜ばれていましたね。

皆さんが三年生になったときには、新型コロナウイルス感染症の影響で、最初の二カ月間、学校がお休みとなる異例の状況となり、それまで当たり前できていたことが当たり前でなくなってしまいました。皆さんには我慢してもらうことが多かったのですが、そのような中でも元気に笑顔で過ごす皆さんに、私たち大人はとても元気をもらっていました。五年生の時には、一階の教室で毎日のように顔を合わせて、気持ちよく元気に挨拶をしたり声をかけたりしてくれる姿に、私自身もいつも勇気づけられ、何とかこのコロナ禍を乗り越えようという気持ちにさせてくれました。また、皆さんの中には、毎朝登校してくると、玄関やアプローチの掃除をしてくれる人がたくさんいて、下級生のお手本となっていましたね。そして、六年生になり、京都御池創生館での小学校最高学年としての生活。「四 G。全ては仲間のために。目指せ五 G」を合言葉に、成長を遂げている姿を見せてくれました。高倉校舎で過ごすことは少なかったのですが、普段の生活の中のいろいろな場で見せてくれた、下級生を思う優しい姿に、一年生から五年生みんなは、六年生のことが大好きでした。先日の「六年生を送る会」では、下級生みんなが大好きな六年生に喜んでもらおうと、一生懸命に折り紙を折ったり、メッセージを書いたり、思いを込めてメッセージを伝えたりしていました。そして、スマイルフォーエバーの合唱。下級生みんなの六年生を思う気持ちが伝わり、心が震えました。下級生の憧れの六年生、中学生になっても、変わらず、下級生の憧れの存在でいてほしいです。

そのような皆さんに、卒業にあたり、私からのメッセージを送りたいと思います。

皆さんの卒業アルバムの教職員の寄せ書きのページに、「なりたい自分に 願いをもち続けよう」と書かせてもらいました。

新しい世界へ向かって、まさに、今飛び立とうとしている皆さん。これからの未来の自分は、他の誰でもない、今の自分自身がつくっていくのです。今、私たちを取り巻く社会は、驚くべき速さで変化していています。とりわけ、科学技術の発展は著しく、AIの進化は、目を見張る

ものがあります。大きな期待と共に、これまでのような未曾有の感染症などの流行、自然災害や環境の変化、国々の争いや急激な経済の変動など、予測できない不安も大きい時代です。だからこそ、自分としっかり向き合い、今の自分を的確に捉え、未来の「なりたい自分」の姿を描くことは、生きていく上で大きな意味をもっています。

これから先、たくさんの「なりたい自分」を思い描いてください。そして、それに近づくために、惜しまず努力をしてください。自分はどうかありたいのか、どのような人になりたいのか、何がしたいか、できるようになりたいことは何なのか。具体的に描けることが具体的に努力できることにつながります。

けれども、時には思うようにならなくて、投げ出したくなるときもあるかもしれません。そのようなときに大事なことは、前向きに、ポジティブに考える、ということです。願いを叶えるの「叶える」という文字は、「口」の横に「プラス」と書きます。その下に「マイナス」と書くと「吐く」という字になります。捨て台詞を吐く、弱音を吐くなど、後ろ向きな、ネガティブな言葉はマイナスの連鎖につながりがちです。どうせできない、無理だ、という言葉は口にするにより、願いを叶えることから遠ざかってしまいます。辛く感じるときこそ、自分なりのプラスの言葉を見つけましょう。そして、願いを叶えるためには、どのような力をつければよいのか、どうやって身に付けるのか、どこでどう学ぶのか、自分で考え抜き、努力を続け、時には立ち止まったり、周囲の人の考えや助けを得たりしながら、皆さん自身の未来を切り開いていってください。

また、皆さんの今日までの成長の陰には、ご家族の溢れる愛情、ご苦労があったことも忘れてはなりません。地域やPTAの方々、学校の教職員の方々、そして、いつも一緒だった友だち。多くの人々に支えられ、励まされ助けられてきたことを思い、感謝の気持ちをもち続けてほしいと思います。その気持ちは、いつも皆さんの力になるものです。そのことは、皆さんは、よくよく分かってくれていることと思います。総合的な学習の時間に、「今、わたしにできること」という学習の中で、これまで自分たちを支えてきてくださった皆さんへの感謝の気持ちを目に見える形で表してきてくれました。そして、今日、小学校生活最後の日に、皆さんの立派な姿を見ることが、その集大成です。最後まで、しっかりと締めくくってくれることと期待しています。

保護者の皆様に、一言お祝い申し上げます。お子達のご卒業、誠におめでとうございます。これまで愛情を注いで育ててこられたお子達の今日の晴れの姿に感慨もひとしおかと存じます。入学から卒業までの長いようで短い六年間。小学校の課程において、お子達は著しい成長を遂げられました。これまでの六年間、高倉校の教育に対していつも温かいご理解とお力添えを賜りましたことに心より感謝申し上げます。どんな時も、子どもたちに寄り添い、学校と家庭が手を携えて、目の前の子どもにとってどうすることが一番よいのかを一緒に考え応援して下さったことに心から御礼を申し上げたいと思います。私たち教職員は巣立っていく百三名の子どもたちをいつまでも見守り応援し続けます。お子達の一層の活躍と幸せを心より祈念いたしております。

最後になりましたが、本日ご来賓の七学区自治連合会会長様、PTA会長様には、ご多用の中、ご臨席賜り、百三名の門出を祝福していただき、誠にありがとうございました。高いところからではありますが、厚くお礼申し上げます。皆様方の六年間の温かい見守りのおかげにより、無事今日の目を迎えることができました。本当にありがとうございました。今後も、この高倉校区の子どもたちを温かく見守っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、皆さんが育ってきたこの高倉の地域、高倉小学校がいつまでも皆さんのふるさとであることも忘れないでほしいと思います。今日はお別れの日ではありますが、未来への新しい一歩を踏み出す旅立ちの日です。自分を信じて、輝かしい未来や夢に向かって大きく羽ばたいてください。

以上をもちまして式辞といたします。

令和六年 三月二十二日

京都市立高倉小学校 校長 野口十三枝